



住みやすい町を目指して…②4

郷土の偉人 二宮尊徳翁と相州御領分絵図

松田町文化財保護委員 草門 隆 (神山在住)

現在「広報まつだ」で連載中の身であり、ご辞退を申し上げましたが、編集委員会のご要請を賜り、お受けしたことをご理解願います。

写真は嘉永4（1851）年の「相州御領分絵図」で「御領分」とは、小田原藩領のことです。画いた人は鵜沢苞典さんで、父は小田原藩・大勘定奉行の報徳仕法推進者の鵜沢作右衛門さんです。

この古絵図は小田原市中里の某氏から譲り受けたもので、御先祖は代々名主を努め「酒匂川の東筋33か村の代表世話人」として報徳仕法推進に活躍された治郎左衛門さんです。神山（村）は、この「東筋」に属しますが、松田惣領・松田庶子・寄は「中筋」になります。

古絵図のこと

デホルメされた酒匂川を中央に太く配し、北東からの川音川が合流し、その沿線に関わる村の名等により「尊徳翁の行動エリア」を示すようなものでもあり、吟味に値するものです。特に、矢倉沢往還（ふじ道）が、下茶屋あたりから川音川と四十八瀬を4回渡り歩く道筋が橙色の線で描かれており、管見ながらこれは新発見と思われます。

二宮尊徳翁のこと

天明7（1787）年に足柄上郡栢山村生誕の尊徳翁が独自に編み出した「報徳」思想・仕法により「江戸末期に我が国の600もの家や藩を蘇らせ、荒廃農村の復興に生涯を捧げた」と言われ、その実績や精神性について明治時代に内村鑑三さんが、著書『代表的日本人』五人の中の一人に挙げ、海外に発信されています。

筆者としては『封建時代の村民に「村おこし」への、その気・やる気の内発的動機を如何に醸成し高揚させたか』ということや、翁への希少な批判等も含め魅了されています。小田原報徳博物館に属し当町における、明治時代以降の「豊かで住みよい町を目指した」とも言える「報徳運動」の実績などについて調査しています。

大正10（1921）年「松田報徳真穆（ぼく）社」の存在や、当町の偉人・中村舜次郎翁の存在がうかがえますが、史料・情報が少なく難渋しています。これに関する情報等のご提供や、ご教示を頂ければ幸いです。この貴重な場をお借りし、お願い申し上げます。



相州御領分絵図 (55×80cm)

※「住みやすい町を目指して」活動されている方や団体が、このコーナーに掲載を希望される場合は下段までご連絡ください。


皆さんの傍聴をお待ちしています！ 第1回定例会は3月1日(火)

委員 石内浩	委員 中野博	委員 南雲まさ子	委員 井上栄一	副委員長 田代実	委員長 利根川茂
-----------	-----------	-------------	------------	-------------	-------------

議会広報広聴常任委員会

この議会はたよりが創刊されたのは、昭和41年4月28日のことです。この頃は、イケイケドンドンの高度経済成長期で、松田町も活気に溢れ元気な時でした。あれから50年が経過し2017号を発行することになりましたが、当時と比べ厳しい時代に突入しております。少子高齢化による様々な問題を抱える町政に、議員も施策提案を行い元気な松田にしなければいけません。

改選後の初めての予算議会、ぜひ傍聴にお越しく下さい。
(田代)



編集あとかき